







# 成果

【一】

ある父と母  
多賀達夫

健二

樹木のある池の端。七月  
上旬の夜。

健二は樹の幹に軽くもた  
れ、時子は傍に立つてゐる

そのまゝ、暫く沈黙。

時子 (あたりを見まはし  
て) 逢へてよかつたわ、  
あたし。でも、よく

来て下さつたわね。

健二 来るとも、僕は随分時  
子 本當に、心配してゐ  
て下さつた?

健二 ほんま、あんな別  
れ方をして平氣でをれる  
はずはないぢやないか。

(間。双方、思ひ胸に充  
ちて言葉なき容子)

時子 丁度二年になるのね  
お別れして。おと、しの  
あればやつぱり今頃だつ  
たわ。

健二 一体、どうしてゐた  
んの、あれから。

時子 あれからね、—あ  
たし。何か先き話して  
いた、か分らないわ。

健二 實際僕は、はげしく  
がかりだつたか知れやし  
ない。むしろ憤つたよ、  
あんな時。あんな風にし  
て逃げ出す法つて、ない

だ。

健二 (何か云はうとして  
云ひ流み健二を見詰る)

健二 それや僕だつて悪  
かつた、あ、いふとこを  
見せてしまつたんだから  
ね。しかしあの時、君が

僕の宿に尋ねて来てく  
れた日ね、あの時僕んと  
こにゐた女は、あれは何  
んでもありはしなかつた  
んだ。

健二 そんな辯解はなさら  
なくていいわ

健二 いや辯解ぢやないよ  
僕は實際を云ふんだ。そ  
んな誤解されたままぢや  
かうして逢つてゐる譯に  
いかにいぢやないか。

時子 ……

健二 敏子は、あの女は敏  
子つていふんだが、少な  
くともあの時まではただ  
の従妹だつたんだ。

時子 ……

健二 もつとも家の方面は  
何かつてもあつたらしく  
いかな。あの日はお袋が  
敏子を連れて其の前の日  
から僕んこへやつて來  
たんだ、着物を仕立ら  
だつてわけだね。ところが  
あの日になつてお袋だ  
け先に歸つてしまつたん  
だ。

時子 ……

健二 もつとも家の方面は  
何かつてもあつたらしく  
いかな。あの日はお袋が  
敏子を連れて其の前の日  
から僕んこへやつて來  
たんだ、着物を仕立ら  
だつてわけだね。ところが  
あの日になつてお袋だ  
け先に歸つてしまつたん  
だ。

時子 ……

健二 もつとも家の方面は  
何かつてもあつたらしく  
いかな。あの日はお袋が  
敏子を連れて其の前の日  
から僕んこへやつて來  
たんだ、着物を仕立ら  
だつてわけだね。ところが  
あの日になつてお袋だ  
け先に歸つてしまつたん  
だ。

時子 ……

敏子に少しばかり仕事を  
残してね—其處へ丁度君  
が訪ねて來たわけなんだ  
ただそれだけだつたんだ  
時子 それ、ほんま?

健二 今更嘘を云つたつて  
仕方ないよ、敏子なごあ  
の時までは全く何んども  
なかつたんだ。

時子 そんな風にはどうし  
てもとれなかつた下せう  
だからあたし、かつとし  
たの。だまされたと思つ  
たわ。

健二 だますなんて。  
時子 さう思つたわ、だま  
されたのだつて、あたし  
は抗議の出來る女ではな  
かつたんだが、でも、  
女つてやつぱり駄目ね。  
あんな時は…

達夫 ……

時子 あの時も、さうあの  
時も丁度二年振りでお目  
にかつたんですのね。大  
分ある様だが誰が何と言  
つても一等は僕のものだ  
吾年らよく出來たものだ  
聞かして位だから決して  
間違ひない、皆の乗下らぬ  
思案はよして呉れ。(日食  
〇〇生)

健二 平のダママ落しは小名濱  
のそれと違つて、ガタ  
つて落ちてきて釘にあた  
つてガチャンと、と點數へ  
入へる、どうしてと眞直ぐ  
に落ちたのよ、さういふ  
入らぬ替りに大した點數に  
もならない、小名濱では名  
人といはれた俺も金四十六  
銭損した、變つたところ  
ではやめるのぢやないね。

時子 ……

健二 もつとも家の方面は  
何かつてもあつたらしく  
いかな。あの日はお袋が  
敏子を連れて其の前の日  
から僕んこへやつて來  
たんだ、着物を仕立ら  
だつてわけだね。ところが  
あの日になつてお袋だ  
け先に歸つてしまつたん  
だ。

時子 ……

健二 もつとも家の方面は  
何かつてもあつたらしく  
いかな。あの日はお袋が  
敏子を連れて其の前の日  
から僕んこへやつて來  
たんだ、着物を仕立ら  
だつてわけだね。ところが  
あの日になつてお袋だ  
け先に歸つてしまつたん  
だ。

時子 ……

健二 もつとも家の方面は  
何かつてもあつたらしく  
いかな。あの日はお袋が  
敏子を連れて其の前の日  
から僕んこへやつて來  
たんだ、着物を仕立ら  
だつてわけだね。ところが  
あの日になつてお袋だ  
け先に歸つてしまつたん  
だ。

時子 ……

健二 もつとも家の方面は  
何かつてもあつたらしく  
いかな。あの日はお袋が  
敏子を連れて其の前の日  
から僕んこへやつて來  
たんだ、着物を仕立ら  
だつてわけだね。ところが  
あの日になつてお袋だ  
け先に歸つてしまつたん  
だ。

## 佐藤代議士を描く

在米 佐々木修一

【四】

「俺は農林省から米國の綿可愛いと云ふ意の古語めく  
花耕作状況を視察して來て  
くれ、旅費はあさからやつ  
からと言はつちやんだ。政  
府のあとでくれるちう金  
なんぞあてになんねえだ  
國家のためだから俺は土産  
物なんぞ一つも買はずに其  
費用の金を除して來た。そ  
して、又飛行機で歸航した  
何アに土産なんぞ孫娘二人  
に入形二つ買へばいいだ。  
孫娘は俺めんとくつて、註  
爪を赤くしたり、目のふち

## 非詩非歌

紅夢樓

緑雨蕭々として降る。  
深淵すべし、私語すべし  
また獨想すべし。  
然り矣!!!  
『獨想』の世界は  
『聖にして大也』  
× × ×  
あ、!! 已ぬる哉!!!  
斯の聖境の庭にふる緑雨  
塵世のものと思へどか。  
蕭々としてふる。

## 與太は

迎撃稿投

亂れ飛ぶ

△小名濱町の發展につれて  
道路の發展はたいしたもの  
です。少し雨が降ると人  
も馬も大車もゴツチャに  
なりさうですが何と本通  
りたけでも改良になりませ  
んか、どうして偉いお方  
々が耳を貸してくれないと  
すれば考へがりますよ  
(愛町生)

## 撞球

金波

小名濱町

## 長瀬印刷所

優秀! 美術的  
印刷の御用命は  
磐城座入口

## ビリヤード

小名濱町

## 帝都新劇團

の明星!

幕開時六後午演開りよ日一十月七る當

特撰上演狂言

時雨唄巡禮旅

新編お夏清十郎

入場料 大人二十銭 小人十銭



カフェー  
ホーライ

小名濱町

東北興業株式会社並に 東北  
振興電力株式会社募集  
資本金總額 各 金三千萬圓  
募集の額面金額 各 金五拾圓  
申込株數單位 各 拾萬株  
申込認購金額 一株又は其の倍數  
申込期間 自昭和十一年七月十四日  
至昭和十一年七月十七日  
(但し期間中と雖も締切ることあるべし)  
募集決定法  
應募株數が募集株數を超過したる場合には  
設立委員に於て適宜割當決定す  
第一回拂込金 金拾圓五拾錢  
第一回株金拂込期間 昭和十一年八月廿五日  
申込取扱銀行  
株式 七十七銀行平支店  
電話三三二・四一四番

市川桃藏 とその一黨  
入場料 大人二十銭 小人十銭  
磐城座



養蠶種子問屋の  
出現を見よ  
キツトアタル初秋蠶種  
日一、二號 × 一〇七號二化  
日一、二號 × 支十七號二化  
石城郡四倉市場  
蠶種取扱所主任  
山下武雄  
石城郡草野村下神谷

小松洋服店  
皇恩會 平町才地小路十二  
小松 正 治  
洋菓子問屋  
九頭見周助商店 湯本驛前通

吉田屋本館  
御旅館 御料理  
小名濱町 電話十四番

特價提供  
時計 眼鏡 萬年筆  
修繕 確實。丁寧本位  
貴金囀類は是非!!!  
小名濱町本町  
松原時計店